東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年４月13

クルアーンとスンナの統一性

親愛なるムスリムの皆様

教えの二つの根本的土台はクルアーンとスンナです。クルアーンとスンナは互いに完全に適合しており、統一されています。クルアーンをスンナから、スンナをクルアーンから区別することは不可能です。クルアーンもこの統一性を教えています。
「アッラーは啓典と英知とを、あなたに下し、あなたが全く知らなかったことを教えられた。あなたに対するアッラーの恩恵こそ偉大である。」（婦人章１１３）「われはあなたがたの一人をわが使徒として遣わし、わが印をあなたがたに読誦して、あなたがたを清め、また啓典と英知を教え、あなたがたの知らなかったことを教えさせた。」（雌牛章１５１）「本当にアッラーは、信者たちに対して豊かに恵みを授けられ、かれらの中から、一人の使徒をあげて、啓示をかれらに読誦させ、かれらを清め、また啓典と英知を教えられた。これまでかれらは明らかに迷い誤の中にいたのである。」（イムラーン家章１６４）

親愛なるムスリムの皆様。アッラーは原則をクルアーンを媒介として示され、その解説や実践についてはスンナを通して行われました。クルアーンから何を理解すべきか私たちに教えて下さったのは預言者ムハンマドです。スンナはクルアーンを解き明かしています。礼拝をしなさいという命令がどのように実行されるべきか、ザカートを支払いなさいという章句、巡礼についてなどもスンナが教えてくれています。預言者ムハンマドはクルアーンとスンナの徳を教えられ、教友たちを育成されました。例えばムアズ・ビン・ジャバルはイエメンに派遣される際、どのように統治するかを尋ねました。ムアズはクルアーンによって統治すること、もしクルアーンに見出すことができなければスンナを頼ること、もしそこになければ自分の考えで判断することを述べました。これに満足された預言者ムハンマドは「アッラーの使者の使いを、アッラーの預言者を喜ばせる形で確固たる存在をしてくださったアッラーに感謝します」と言われました。

この育成を経たカリフたちも、クルアーンやスンナを別々にしてしまうことはなく、共に根拠として認めていました。

だから、私たち信者のなすべきことは、預言者ムハンマドが遺産として残されたクルアーンとスンナを一つの全体であると認め、「私たちは聞き、それに従った」という対応をとることです。クルアーンは「本当の信者たちは、裁きのため、アッラーと使徒に呼び出されると、「畏まりました。従います。」と言う。本当に、そのような人々こそ栄える者である。アッラーと使徒に服従し、アッラーを畏れ、かれに自分の義務を尽くす者、そのような人々こそ（最後の目的を）成就する者である。」（御光章５１－５２）という吉報を伝えています。今日のフトバを関連する次のクルアーンの言葉で締めくくります。

「使徒に従う者は、まさにアッラーに従う者である。誰でも背き去る者のために、われはあなたを見張り人として遣わしたのではない。」（婦人章８０）「あなたがたがもしアッラーを敬愛するならば、わたしに従え。そうすればアッラーもあなたがたを愛でられ、あなたがたの罪を赦される。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」（イムラーン家章３１）「アッラーに従い、使徒に従え。あなたがたがもし背き去るとしても、かれにはかれの負わされた務めがあり、あなたがたにもあなたがたの負わされたものがある。だがあなたがたがもしかれに従うならば、正しく導かれるであろう。使徒に課せられることは、只明瞭に（啓示を）伝えるだけである。」（御光章５４）